

令和3年（2021年）5月13日

山形大学の新型コロナウイルス感染対策

～授業実施における感染防止の取り組み～

【本件のポイント】

- 感染対策を徹底し、学生の多様な学びの機会を確保
- マスク・手指消毒・三密の回避など一般的な感染対策のほか、独自開発の二次元コードによる着座情報収集システムなど、ICTを活用した先進的な対策を実施
- 十分な感染対策のもとで対面授業のほかアクティブラーニングや実習・実験、フィールドワーク、インターンシップを実施



【概要】

山形大学では、現在の大学教育において社会的に求められている、十分な感染対策をした上で教育効果の高い授業形態による教育の実施や、個々の学生の事情に配慮した多様な学びの機会を提供しています。一般的な感染対策であるマスク着用、手指消毒、三密の回避、行動記録の他に、適切な教室定員の管理、二酸化炭素濃度計を用いた教室換気、独自開発の二次元コードによる着席記録、学生の事情に配慮した受講機会の確保、学外活動や課外活動における活動計画の集約、一元的な健康管理を実施しています。地域の感染状況にもよりますが、今後は講義室における対面授業のほか、十分な感染対策を実施した上で議論や発表を行うアクティブラーニング型授業や実習・実験、学外活動となるフィールドワークやインターンシップを順次実施していきます。

【背景】

現在の大学教育においては、単に対面授業を実施する・しないということだけではなく、十分な感染対策のもと、最も教育効果の高い授業形態による教育の実施や、個々の学生の事情に配慮した多様な学びの機会の提供が社会的に求められています。

山形大学では、一般的な感染対策であるマスク着用、手指消毒、三密の回避、行動記録の他に以下のような取り組みを行い、アクティブラーニングや実習・実験・フィールドワーク・インターンシップといった多様な授業を開講しています。また、個々の学生の事情に配慮した受講方法を提供しています。



【感染対策】

・教室定員の約半分での授業実施

原則として学生間で1.5mの間隔が取れるよう、座席を1つ空けて着席しています。そのような間隔が取れない大人数の授業はオンラインで実施しています。

・講義室換気と二酸化炭素濃度計の活用

小白川キャンパスでは、終日講義室の対角の窓を開放して十分な換気をするとともに二酸化炭素濃度計に連動した換気を行なっています。

・独自開発の二次元コードによる着席記録

学生が各座席の二次元コードをスマートフォンで撮影して着席記録を行い、大学が一元的に管理することで迅速な調査を可能としています。

・学生の事情に配慮したオンライン授業

本人や家族の健康面での事情で通学が困難な学生には、対面で実施されている授業を遠隔で受講できるよう配慮しています。



- ・実習に備えたPCR検査の実施

学外の人々と接触する可能性のある実習においては、参加前にPCR検査を実施している科目もあります。

- ・課外活動状況の把握

サークル活動などの課外活動は事前に活動計画を提出し、活動は許可制としています。

- ・一元的な健康管理と迅速な意思決定

学生や教職員の健康状態を保健管理センターが一元的に管理し、それをもとに迅速な意思決定を行います。



【今後の展望】

世界的に新型コロナウイルス感染症の収束が不透明な状況下、今後も学生の目線で質の高い大学教育を継続的に提供していきます。

お問い合わせ

学術研究院 教授 千代 勝実 (基盤共通教育担当)

TEL 023-628-4973 メール senyo@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp